

---

# 葱間・トリップ

KEAG-B

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

葱間・トリップ

### 【Nコード】

N6856Y

### 【作者名】

KEAG-B

### 【あらすじ】

「葱?」「葱だね」「葱ですね」「葱だよ」  
ネギまの二次です。

主人公は相変わらずのチート能力を持って、ネギまの世界にトリップ。

主人公は原作知識薄い、  
というか皆無。

## 第零話（前書き）

続編みたいなものです。

楽しんで読んでもらえたら幸いです。

## 第零話

「手続きが完了したよ」

「ああ……………やっとか。」

「随分お疲れのようだね」

「何があつたか知ってるだろうが。」

「ははは、当然じゃないか」

「……………くたばれ。」

「冥界は今、ギゼン君が統治してるんだよ？  
全くハデスやヘルにイザナミは何をしてるんだか」

「お前の地位がいまいち解らんのだか？」

「すごいーく偉いと思つてればいいよ」

「そうかい。」

「しかし、ギゼン君は遅いね

冥界の仕事がある程度片付けてるから仕方無いのかもしれないけど

……………」

「ギゼンは神の領域に踏み込んでるのか？」

「踏み込んでる処か、どつぷりと浸かってるよ」

「俺は？」

「君もだよ

それに、色んな神の加護を受けちゃってさ、僕的能力要らないんじゃない？」

「ミーちゃんの剣も神剣にまで昇華させたしなあ。」

「『や』

『久しぶり』」

「お久しぶりです。」

「来たね」

「二人とも久しぶり。」

「じゃあ、君たち三人を送るよ  
送る先はネギマという物語の世界  
全員、原作に関わりを持たせるから、原作ブレイクとか気にしなくていいよ」

「ネギマ？」

「細かい説明は面倒だから省くけど、なんとか対応してね  
それじゃ、行ってらっしゃい」

パカッ

地面に穴が空くが

「……………（バサバサバサバサ）」

「そいえば、飛べたね  
でも、どーん！」

結局は落とされたよ。

## 第一話（前書き）

主人公は死んでいないので、転生ではないですよね？

## 第一話

どうも、カズキだ。ただいま現在進行形で墜ちている。

神が手を施したのか羽で飛ぶことが出来ないのだからただ墜ちているのだ。

しかし、落下時間が長い。

もう、三分程墜ちているだろう。

成層圏から落とされたのだから当然かもしれないが……

ぼんやりと墜ちていたら携帯が鳴った。

「メールか……何々？」

【from 神

ごつめーん（詫）

ちよーっただけ時間軸間違えちゃった（笑）

君たちを中生代それも三疊紀の終わり、ジュラ紀始まり位に送っちゃった（笑）

御詫びにそっちの世界で生まれる筈の魔法書とか魔法球とか魔法発動体とか送ったから活用してね（爆）

じゃ、がんば（哀）】

.....」

ジュラ紀.....

人類の出現が大体450万年前.....ジュラ紀の始まりが2億年前.....

「ネギマってどんな物語なんだ？」

ドゴーン!!

どうやら、地面に墜落したらしいな。

「よつと」

地面には小規模のクレーターが出来てしまったが、体にはなんの問題もないな。

「さて、これからどうするか。」

辺りをみるとシダ植物やイチョウ等の裸子植物で被子植物は見当たらない。

「どうやら、本当に古代らしいな。」

ズシン ズシン ズシン

「恐竜か……？」

地響きをたてながら現れたのは、逞しい後ろ足、鋭い爪と牙、明らかに俺を捕食する気満々の瞳を持つ肉食恐竜。

「イビジョーって…こんな感じだったなあ」

異世界初の遭遇者が肉食恐竜なんだから現実逃避ぐらいさしてくれよ。

GYA O O O O O O O O O O

「はあ……」

神剣を抜いて、イビル　ヨーの首を一斬で切り落とす。

「恐竜……旨いのかな？」

そこらの石を錬金術で調理台にして、木を集めて赤火砲で火をつける。

「尻尾でいいか？」

尻尾を輪切りにして調理台に二つ並べる。

「そろそろ焼けたかな？」

木を錬成して造った箸で恐竜の肉をひっくり返しながらかく。

「いただきます」

食べてみれば、少し筋っぽく固いが食べれないほどではないな。

味も悪くないな。

「ごちそうさまでした」

恐竜肉も結構いけるな。

さて、本格的にどうするか？

「とりあえず、魔法書やら魔法発動体やら魔法球やらを確認してみるか」

しかし、ギゼンやアンラは何処にいったんだ？

同一箇所にとばされるとは限らないから仕方無いのか？

ぼっちとか言うなよ。

はっ、変な電波をした。

これが魔法書だな。

内容は……………

魔法の詠唱内容と魔法名、後簡単な効果説明が系統ごとに書かれていた。

「魔法の発動には発動体が不可欠である……この指輪がその発動体か。」

先ずは初心者用の呪文から……この世界の魔法に必要な魔力を感じることからだな。

「ごほん……えー……プラクテ・ビギ・ナル『火よ灯れ』」

「まあ、最初だしな……プラクテ・ビギ・ナル『火よ灯れ』」

「プラクテ・ビギ・ナル『火よ灯れ!』」

「プラクテ・ビギ・ナル『火よ灯れ——!!!!!!』」

「プウラアクウテエ・ビギ・ナルウ、火よ灯れ――――！！！！」  
「！！！！」

「……………」

もう嫌だ。

「よし、目先を変えてみよう。」

「プラクテ・ビギ・ナル、風よ、」

「……………」

「プラクテ・ビギ・ナル、風よ、」

「……………」

「プラクテ・ビギ・ナル、風よ！！」  
「」

「……………」

「これもか……」

「ザケル」

手からちゃんと雷撃が放たれた。

「……………要練習だな。」

幸い時間は腐るほどある。

魔法球の方は……取説付きか。

「えー…何々？」

中に物を入れる。

人も入れる。

外と中との時間差をある程度いじれる。

中は結構広い。

中は魔力が満ちているので魔法の練習にオススメ。  
太陽もある。

地形もある程度なら変えられる。

入るうと念じれば大体オツケー。

e t c、e t c。

詰まる所、収納球だな。

野球の硬球位のサイズだけど……… 入るのは後でいいか。」

確認も終わつたし、まずは拠点となるところ探さなきゃな。

水場の近くで、雨も防げる。

洞窟でも探すか。

目的も決まつたし。

この世界では自分の好き勝手に面白おかしく暮らさせて貰おうかね。

ほとんど不老になってるしな。

「あ、マスターとアネリアさんからもらった餞別まだ見てねえや。」

マスターの方は………これは隊長羽織？しかも長袖。

背中には鐘をモチーフにした福音の鐘のギルドマーク。

「これは凄いな。」

早速着てみる。

「サイズぴったりだな。

アネリアさんのは、っと。」

着流し

「こっちを先にあけるべきだったな。

しかし、二つでワンセットか。いつ示し合わせたんだ?」

サイズはこっちもぴったりでした。

## 第一話（後書き）

主人公に魔法の才能はありません。

時間を掛ければ極める事は出来ますが、あくまで才能は全てにおいて凡人並みです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6856y/>

---

葱間・トリップ

2011年11月23日13時00分発行